

【基本施策の目的】




子育てをしているだれもが、安心して子育てができる体制を整えるとともに、子ども自身が健やかに成長できる環境を整えます。

【基本施策の今後の優先度】

大

学校教育と子育て支援は、連続かつ表裏一体の関係にある施策である。子育て支援では、基本施策の指標値の改善に向けて、「子ども未来館の創設」、待機児童問題対策としての常普請区内民間認可保育所の開設など予定であり、同一分野内における他の基本施策との比較の結果、「大」と判断した。

【指標の分析と今後の対応】

指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因、今後の見通し(予測)	今後の対応
合計特殊出生率	-	実績	1.54 (H25)		1.59 (H26)	1.54 (H27)	昨年と比べると、20～24歳、30～34歳、40～44歳の階層で出生率が増えたものの、全体としては減少した。高年齢での出生率が増加は、晩婚化や、経済的に余裕が持てる高年齢での出産などが要因と考えられる。 全国的に少子高齢化が進行しており、今後、合計特殊出生率の増加は見込めないが、減少を食い止められるよう、子育て支援を継続する。	第2子以降の出産を後押しできる環境の充実を図るため、保育園や児童クラブの整備を進め、保護者が安心して就労できる環境を整え、経済的な負担感の軽減を図ることに優先して取り組む。
		目指す方向性						
安心して子育てができるまちと思う市民の割合	%	実績	59.5	56.6	52.9	53.7	年齢別の割合は、20代44.1%、30代56.4%、40代66.7%と、小さい子どもが多い世代ほど低い傾向にあることが推測できるので、特に未就学児など低年齢の子どもを育てている家庭への支援が必要と思われる。	この指標は市民意識調査の項目であるため、達成度向上するためには、より市民意識を考慮した事業が必要である。 低年齢の子どもを育てている家庭への支援として、子育ての不安感の軽減を図るため、中央子育て支援センターの機能拡充や、児童館における地域での子育て支援の充実を、引き続き推進する。
		目指す方向性						
これからも小牧で育っていききたいと思う子どもの割合	%	実績	79.1	82.1	81.0	80.8	小学5年生では84.9%、中学2年生では76.3%の子どもが、今後も小牧市に住みたいと回答しており、学年が上がるほど、低い傾向がある。 特に、東部地区の中学生が、他地区に比べて、低い傾向があり、東部地区の子育ちを支援する仕組みづくりが必要である。	この指標は市民意識調査の項目であるため、達成度向上するためには、より市民意識を考慮した事業が必要である。 東部地区では、名古屋等への通学に不便であることや、ゲーム店の閉鎖により、遊び場が減っているという現状があり、東部地区の中高生の意見を把握し、対策を講じる必要がある。
		目指す方向性						

展開方向	指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因、今後の見通し(予測)	事務事業等の見直し内容
1 子育て家庭を支援します	児童虐待の認知件数	件	実績	1,120 (H26年度)		1,002	1,028	<p>昨年度と比べて、身体的虐待、心理的虐待の件数が増加した。児童自身が身体的な虐待を受けていなくても、周りでDVがあれば、心理的虐待として扱われるため、今後も認知件数が大きく減少することは考えにくい。</p>	<p>関係機関との連携を密にして、虐待被害にあう児童救済に努める。</p>
			目指す方向性	↓					
	放課後児童クラブの待機児童数	人	実績	0	0	0	0	<p>現状は、要件を満たす児童全てを受け入れているため、方向性どおりの実績となっている。平成32年度からは、「小牧市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例」に規定する面積基準(児童1人あたり1.65㎡)を満たす必要があり、所要の整備をしないと待機児童が発生する可能性(定員制の導入)がある。</p>	<p>学校の利用可能な教室の活用を第一に検討しながら学校敷地内でのクラブ室整備(転用工事等)を進める。不足する支援員の確保策として、引き続き様々な方法で募集するとともに、処遇改善(国庫補助活用)を検討する。クラブ室の維持修繕を行い、安全で快適な環境を維持する。これらの方策に必要となる予算確保に努める。</p>
			目指す方向性	0					
2 地域の子育て・子育てを支援します	児童館および子育て支援センター利用者数	人	実績	19,470 (H26年度)		20,321	19,843	<p>H27年度と比較すると利用者は減少したが、子育て支援を行う上で重要な施設であるので、今後も利用者にも満足していただけるサービスの提供に心掛ける。</p>	<p>児童センター、中央子育て支援センターの老朽化、狭隘化の問題があり、ラピオへの機能移転を目指す。</p>
			目指す方向性	↗					
	子ども会に加入しているこどもの数	人	実績	3,439	3,286	2,897	2,677	<p>子ども会に加入するこどもの数は、少子化の進行と併せて、市子連に加入しない子ども会数の増加により、今後も減少が予測される。</p>	<p>こまキッズフェスタの共催などの支援など、市子連役員の負担軽減を図る。</p> <p>市子連役員による未加入子ども会への働きかけや、脱退を防ぐための支援について、市子連役員の活動を支援する。</p>
			目指す方向性	↗					

展開方向	指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因、今後の見通し(予測)	事務事業等の見直し内容
3 保育サービス・幼児教育を充実します	保育園の待機児童数	人	実績	39 (H25.4)	49 (H26.4)	31 (H27.4)	27 (H28.4)	平成27年度中から小規模保育事業の募集をはじめ平成29年4月1日では12箇所まで運営している。平成29年度中に3箇所募集・選定し、その他に1箇所新設の申出を認可し、平成30年5月1日には16箇所になる予定である。	教育ニーズから保育ニーズへ移行の傾向があることや、小規模保育事業の卒園児(3歳児)の受入先などの保育需要に対応するため、保育園の新設や私立幼稚園の認定こども園化を推進する。
			目指す方向性	↓					
4 健全な青少年を地域で育てます	青少年の補導人数	人	実績	2,152 (H25年)	1,582	1,660	403	実績数は小牧警察署からの聞き取りした人数である。パトロールを強化したり、声かけを多く実施した結果、前年度より減少した。しかし、補導の大半は深夜徘徊であり、その傾向は変わらない。今後も、警察や少年センター補導員会と連携してパトロールや見守り活動を強化していく。	深夜徘徊は、大人や警察の目に届きにくいと、予防対策として、青少年健全育成市民会議を中心に、あいさつ運動をはじめとする啓発運動の展開、地域、学校との連携して、日頃から大人が子ども達を見守っていく体制を整えていく。
			目指す方向性	↓					
4 健全な青少年を地域で育てます	中学生の地域活動への参加率	%	実績	36.2 (H24年)	51.0 (H25年)	49.0 (H26年)	42.0 (H27年)	中学生の地域活動は、ジュニア奉仕団活動以外にも、生徒の地域行事への派遣やボランティア活動が行われている。学校によって、生徒数の減少により、ジュニア奉仕団での切り替えなどが行われていることから、今後も減少する可能性がある。	中学生の地域活動は、自主性や社会性を身につける機会となる。学校・家庭・地域、そして学校地域コーディネーターとの連携、支援、相談を重ねながら、生徒の活動の場の確保や、活動の参加を促していく。
			目指す方向性	↑					

経常事業	削減に関する具体的な考え方	展開方向 1	<p>市遺児手当支給事業は、経済的に困難を抱えているひとり親世帯への支援策として一定の成果を示している。近年の決算額が減少傾向であることと、ひとり親世帯への支援策の拡充を行っていることを鑑み、一定額を削減しても事業の目的は達成できると判断できることから、一定金額を削減する。引き続き、ひとり親世帯の自立支援策の推進を図る。</p> <p>児童クラブ施設整備事業は、公共ファシリティマネジメントの観点から、新たにクラブ室を建設するのではなく、学校の余裕教室の転用を第一に検討していく。このため、新增築事業費は皆減となるものの、今後クラブ室の老朽化対策工事及び教室転用工事が必要となり、安全な環境確保のために一定の事業規模は確保し続ける必要がある。</p> <p>ファミリーサポートセンター運営事業は、利用件数が減少傾向ではあるものの仕事と育児を両立する一つの手段として、ある程度のニーズが見込まれるため、引き続き同程度の事業規模を確保する必要がある。</p> <p>児童虐待の取り組みについては、要保護児童対策協議会を設置して関係機関と連携しながら、事例の把握や対応を協議しており、今後も同程度の事業規模を確保する必要がある。</p>
		展開方向 2	<p>子ども会活動支援事業は、本市の目指す「こどもを中心に世代を越えて全ての人がつながり、地域全体で子育てや育ちを支え合うまち」を実現するため、地域の子どもは地域全体で育む支援が必要である。そのため、こまキッズフェスタの開催は、市民に子ども会活動を知る機会となっている。今後も、子ども会がこども達の健やかな成長を促進する環境を整える受け皿となる効果となっていくため、来年度も継続していくものである。</p> <p>こども夢・チャレンジ基金積立金は、第6次小牧市総合計画新基本計画に掲げた都市ビジョン「こども夢チャレンジ・No.1都市」の実現に向けた経済的基盤であり、企業や団体を含む市民の方からの寄附金を積み立てていくため、来年度も継続必要のある事業である。</p> <p>児童館運営一般事業及び児童館管理運営委託事業において、英語に親しむプログラムに関する講座を開催している。すぐに予約でいっぱいとなるので、保護者の関心の高い事業であり、今後も同程度の事業規模を確保することが望ましい。</p>
		展開方向 3	現状の事業を引き続きしっかりと進めていく。
		展開方向 4	「少年センター管理運営事業」、「青少年健全育成推進事業」、「こども体験活動事業」、「青年の家管理運営事業」、「放課後子ども教室事業」、「成人式祝賀式開催事業」について、事業の内容を見直し、事業費の一部を削減する。
実施計画事業	資源投入の考え方	展開方向 1	<p>ひとり親家庭等日常生活支援事業は、利用者数は少ないものの、ひとり親家庭の自立を促すことが最終的には公費扶助の削減に繋がることも鑑み、引き続き同程度の資源投入が必要であると判断している。なお、29年度より新たに2種の給付金制度を導入することで、さらなるひとり親家庭への支援を図る。</p> <p>児童クラブ運営事業は、全学年の加入率が約25.2%（前年度24.5%）であり、うち1年生は37.7%（前年度39.0%）となっている。就労世帯の重要な支援策と位置付けられるため、引き続き同程度の資源投入が必要であると判断している。</p> <p>ファミリーサポートセンター運営事業費の大部分は、臨時嘱託職員の賃金であるため、事業内容の見直しによる費用の削減は難しい。よって引き続き同程度の資源投入が妥当である。</p> <p>児童虐待の取り組みについては、法改正に伴い軽易な案件は市で対応することとされたため、今後市の対応件数が増加するものと予想される。</p>
		展開方向 2	<p>こども夢チャレンジ推進事業は、第6次小牧市総合計画新基本計画に掲げた都市ビジョン「こども夢チャレンジ・No.1都市」の実現及び、小牧市ブランドコンセプトの柱のひとつである「子育てしやすいまち」を具現化していくため、29年度から新たに取り組む、学習支援事業「駒来塾」の開設とプログラミング講座を加えて事業を拡大することは、参加するこども達にとって夢を育み、夢の実現に向けての成長を促す効果があるため、引き続き資源の投入が必要であると考える。</p> <p>子育て支援センター運営事業については、子育て支援の核となる事業であるので引き続き資源の投入が必要であると考える。また、児童館の子育て支援室への専従職員の配置を拡大したことから、利用者数も大きく増えたことから、基幹となる支援センターへの資源の投入による効果も大きいと考える。</p> <p>児童館運営一般事業及び児童館管理運営委託事業における英語に親しむプログラムに関する経費については、必要に応じた予算確保することが望ましい。</p>
		展開方向 3	<p>保育園施設営繕事業では、老朽化している園が多く長寿命化を図るためにも積極的な修繕が必要となるため、このまま維持する。</p> <p>待機児童解消事業では、小規模保育事業数は平成29年度の公募等により16箇所となる。公募により選定された私立保育園の建設補助及び私立幼稚園の幼保連携型認定こども園への移行のための改修費用補助が見込まれるため事業が拡大する。</p> <p>教育・保育事業では、篠岡保育園及びみなみ保育園を民営化する予定であり、私立保育園の増加に応じて事業を拡大する。</p>
		展開方向 4	経常事業を引き続きしっかりと進める。